

令和6年11月8日  
(事務担当)  
総務課人権推進室  
福島  
内線 3386

## 「人権啓発フェスティバル石川2024」の開催について

### 1 目的

人権尊重社会の担い手は県民一人ひとりであり、人権尊重社会を確立するためには、県民が人権に関し自身のことであるとの認識のもと、各種人権関係行事に参加し、人権に対する理解と関心を深めることが重要である。

そこで、県民が楽しい雰囲気の中で人権について考え、人権尊重意識を高めるための啓発活動の一環として、「人権啓発フェスティバル石川2024」を開催する。

### 2 主催

石川県、石川県教育委員会、金沢市、金沢地方法務局、  
石川県人権擁護委員連合会、石川県民生委員児童委員協議会連合会、  
石川県人権啓発活動ネットワーク協議会

### 3 開催日・会場

令和6年11月10日(日) 12:00～15:00(予定)

石川県地場産業振興センター新館 コンベンションホール(金沢市鞍月2-1)

### 4 内容

#### <イベント>

(1) 開会・人権作文朗読 (12:00～12:20)

(2) 映画上映 (12:20～14:30)

映 画：ただいま、つなかん

(3) トークショー (14:30～15:00)

登壇：風間 研一 氏(監督)

オンライン中継：菅野 一代 氏(本作登場、民宿つなかん女将)

#### <外部コーナー>

(4) 展示コーナー

人権啓発「一枚の絵てがみ」

(5) 人権相談コーナー

### 5 その他

入場無料・申込不要

手話通訳・要約筆記あり

# 人権啓発 フェスティバル 石川2024



人権啓発キャッチコピー

「誰か」のことじゃない。

## イベント

- 12:00~12:20 人権作文朗読
- 12:20~14:30 映画「ただいま、つなかん」
- 14:30~15:30 トークショー

登壇：風間 研一 監督  
オンライン中継：菅野 一代 さん  
(本作登場 民宿つなかん女将)



映画 *ただいま、  
つなかん*

3.11からコロナ禍まで  
たくさん笑ってたくさん泣いてころを紡ぐ  
民宿「つなかん」の物語



©2023 bunkakobo ©鈴木盛男



©2023 bunkakobo

- 展示コーナー  
人権啓発「一枚の絵てがみ」

- 人権相談コーナー

日時 令和6年11月10日(日)  
12:00~15:00(開場11:30~)

会場 石川県地場産業振興センター新館  
コンベンションホール(金沢市鞍月2-1)

お問い合わせ先：石川県総務課人権推進室  
TEL 076-225-1235 FAX 076-225-1234

主催：石川県、石川県教育委員会、金沢市、金沢地方法務局、  
石川県人権擁護委員連合会、石川県民生委員児童委員協議会連合会、  
石川県人権啓発活動ネットワーク協議会

入場無料・申込不要

手話通訳・要約筆記あり





©2023 bunkakobo ©加藤拓馬



©2023 bunkakobo



©2023 bunkakobo

ただいま、  
つなかん

## 3.11からコロナ禍まで たくさん笑ってたくさん泣いてところを紡ぐ 民宿「つなかん」の物語

監督

かざま けんいち  
風間 研一

プロフィール



1977年生まれ。神奈川県横浜市出身。神奈川県立柏陽高等学校卒→立教大学理学部化学科卒。化学系専門商社に入社後、テレビ情報番組のADを経て文化工房へ入社。以来、テレビの各情報・報道番組に出向のかたちで在籍しながら主に企画特集を制作し、年3～4本の企画特集を制作・放送。2019年、自ら希望して報道番組の出向から異動し、ディレクター・プロデューサーとして文化工房制作の番組などに携わる。現・マックスメディアラボ代表。

これまでの受賞歴は、自閉症の芸術家を追った「作品は語る」(2012年)、民宿つなかんの料理長(当時)を追った「僕は今ここにいる」(2016年)で、ともに民教協スペシャル優秀企画賞。映画「ただいま、つなかん」で、第46回日本カトリック映画賞(2024年)。本作映画初監督。

震災によって生まれた「絆」のその先には誰かが誰かを思う気持ちが溢れていました。

宮城県気仙沼市唐桑半島 <sup>しびたち</sup> 鮎立。

美しい入江を見下ろす高台に民宿「唐桑御殿 つなかん」があります。

100年続く牡蠣の養殖業を営む菅野和享さんと一代さん夫妻は、東日本大震災当時、津波により浸水した自宅を補修し、学生ボランティアの拠点として開放、半年間で延べ500人を受け入れてきました。

若者たちに「つなかん」と呼ばれたその場所は夫妻の「皆がいつでも帰ってこられるように」との思いから、2013年の秋に民宿に生まれ変わります。

女将となった一代さんは、自慢の牡蠣やワカメを振る舞い、土地の魅力を自ら発信。

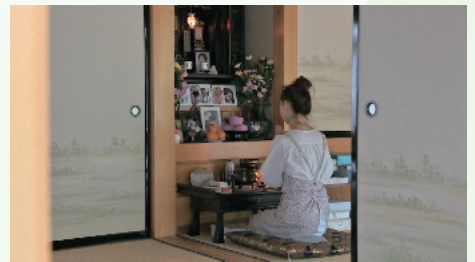
そんな「つなかん」に引き寄せられるかのように、次々とこの地に移り住む元ボランティアの若者たち。

彼らは海を豊かにする森を育てたり、漁師のための早朝食堂を営んだり、移住者のサポート体制を整えたりと、地域に根ざしたまちづくりに取り組み始めます。

復興のその先を見つめる一代さんと若者たち。そんなある日、海難事故が発生。養殖業を廃業し、閉じこもりがちになった一代さんを思い、全国各地から「つなかん」に集まってくる元ボランティアや仲間たち。

涙なみだの時を経て、民宿は再開。いつしか若き移住者たちは新しい命を授かり、地域を担う立場となっていきます。

そして、コロナ禍による民宿存続の危機の中で迎えた2021年3月11日。震災から10年という節目を機に、一代さんは大きな一歩を踏み出そうとしていました。



©2023 bunkakobo